

## (単元)鑑賞

## (本時のねらい)

本校の生徒は大変まじめで真剣に授業に取り組む生徒が多い。しかしながら受け身の授業態度で積極性や自主性はまだ不十分といえる。自分たちがお互いの作品の評価をすることで自ら主体的に取り組む力を身に付けてほしい。また文化的体験の機会があまり多くない環境のため、幼少のころから日常的に芸術に触れる経験が少なく、鑑賞に対する興味・関心が薄い生徒も多い。楽しく鑑賞する機会を体験し、生涯美術を愛好する心情を育てたい。

## (ICT活用方法)

生徒が制作した課題「手のデッサン～感情を表現する～」を鑑賞する。お互いの作品を机の上に立てた状態で展示し鑑賞し合う。その後お互いが鑑賞シートを使用し評価・感想を記入し制作者に渡す。従来、教師講評の時はその作品を前で全員に提示していたが、細部が見えず説明が理解しにくかったり、作品のほうへ注視させるのが難しかったりした。そこで無線で映像がつながるテレビとタブレットを活用してリアルタイムで生徒へ提示するように改善した。

## (本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	ICT活用方法	備考
導入 5分	○本時の活動内容を知る。	○作品の展示・鑑賞も含め自分の芸術活動であることを理解できるように説明を行う。	○予め昨年度の作品を画面に提示しておき、鑑賞の授業であることを視覚的に理解できるようにする。	
展開 35分	○キャプションシートに自分の作品についての情報を記入する。  ○机を立てて作品を見やすい状態に展示する。  ○コメントカードに作品の感想や評価を記入し、制作	○鑑賞の仕方、評価の仕方についてのルールを説明する。特に人権に配慮して評価・コメントするように注意を促す。  ○時間の許す限りたくさんの人にコメントをつけてあげるように促す。	○生徒がある程度鑑賞を行ったら、生徒評価の高い作品や教員が注目してほしい作品について写真を撮り、それをすぐに画面に提示し、細部などを拡大して作品の特徴や評価できる点などを講評する。状況によって	○生徒は自由に動いて作品を鑑賞する。  ○シールはキャプションシートに貼っていく。

	者に渡す。  ○シールを使いお気に入りの作品にポイントをつけていく。	○会話のできる雰囲気づくりをして制作者への質問等がしやすい環境を作る。	まとめて撮影して講評したり、カメラ映像そのままを動かして説明したりする。	
まとめ 10分	○机を元の状態に戻し着席する。  ○教員の講評を聞き、鑑賞の授業の感想を記入する	○総講評を行い鑑賞行為も芸術活動であることを理解できるように説明を行う。		

(授業の様子)



教材の投影方法



展示方法



キャプション・コメント等

(生徒の反応と課題，改善を要する点)

芸術家の作品の鑑賞ではなく、自分たちの作品を改めて鑑賞するという事で新鮮な気持ちで楽しく鑑賞できたようである。また無線接続なので生徒たちが自由に動いて鑑賞している中をその場で撮影してその時に全員に提示できることで授業をスムーズに進行することが出来た。作品講評も細部を拡大するなどして良い点や特徴などを説明しやすかった。一方で電子黒板ではなく単なるテレビであるため、準備に時間がかかったり、接続のトラブルが起きたりすることも多く、また投影した作品に直接描き込むような指導方法が難しかった。ICT環境があまり整っていない環境でICT活用を考えるならそれなりの設備や環境を整えていく必要性を感じた。また一人一台のコンピューターやタブレットがあれば、デジタルメディアを活用した制作事例等、さらなるICT活用の授業を実践することが可能であるし、今後の生徒には必要な活動であると感じる。